

## 美保南地区でまち歩きを行いました!

美保南地区における防災学習の一環として、地区の方々と一緒に流域と河川にまつわる歴史等を学び、流域内の主要な川や水路の他、旧跡を巡ることで地域の成り立ちや水の集まりやすい特徴等について、理解を深めました。  
今後も継続的に取り組み、他の地区でも実施する予定です。

今回は、座学の概要やまち歩きの様子をお伝えします。

日時: 令和4年12月22日(木)  
10時00分~(約2時間程度)  
場所: 美保南地区公民館、清水川流域他  
参加者: 地区、行政関係者約30名



座学の様子



まち歩きの様子

## 美保南周辺の変遷について

### (1) 川・水路から見る地区の特徴……

- 美保南地区に流れる主要な河川である「千代川」、「大路川」が越水・破堤すると大災害となります。
- 山白川は周辺の土地より高い位置にあり、山白川から分岐した用水路(現在は排水路になっているものも多い)が網の目状に広がっています。
- 清水川は周辺の土地より低い位置にあるため、大路川が増水したときは、合流部の樋門を閉めて大路川からの逆流を防止するとともに、地区に集まってきた水を大路川にポンプ排水する必要があります。

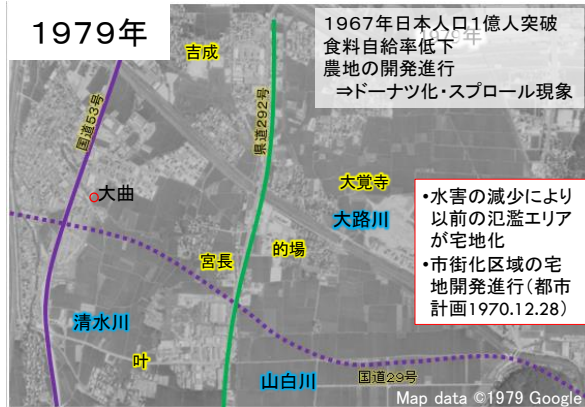
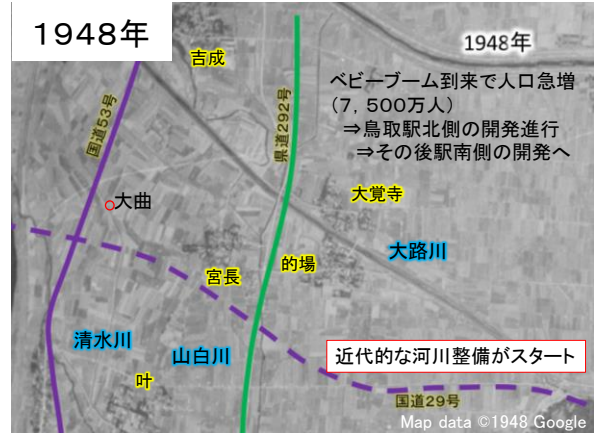
### 川・主要水路の位置図



Map data ©2021 Google

## (2) 大路川流域・美保南地区周辺の変遷

- 大路川流域は、江戸時代以前は低湿地で開発は進んでいませんでした。
- 藩政期に入ってから、「因幡の国の暴れん坊」とまで言われた千代川を治めるため、鳥取藩（右岸側）と鹿野藩（左岸側）で競うようにして堤防の整備が進められ、田畑としての利用が可能になっていきました。
- 明治期以降になると、国力を上げるための水害対応として、全国で近代的な河川整備が進められるようになり、戦後には、千代川の河川改修や大路川、清水川等の改修の他、排水機場等のポンプ設備の整備が進められました。
- 河川整備の結果、河川の氾濫や床上浸水が多数発生するような、極めて甚大な浸水被害がなくなり、宅地化等の開発が急激に進行し、従来は主に用水路として用いられてきた水路の役割も、排水路へと変化してきました。



## まち歩きの様子等

- 清水川の上流端（田畑）から下流部（市街地）までを水路網に沿ってバスを使いながら巡りました。
- 上流部から下流部に至るまでに、水路の役割り、用途が変化すること、市街地にも一部に田んぼが残っていること（用水が必要）等を実感していただくことができました。
- 水路沿いにある、地域の旧跡「葉の大曲跡」にも立ち寄りました。
- 一度では全てを歩くことはできないため、今後、数回に分けてまち歩きが行われる予定です。



鳥取藩主、池田光仲公が最後の別れの時、城を眺めるために街道を作り変えられたといわれる、歴史的な場所です。